

尾瀬の風に誘われて⑤

齋藤留治（藤島・新町）



長蔵小屋にて

沼尻で休憩した後、今夜の宿「長蔵小屋」へと向かう。

右手には、沼というより高原の湖の佇まいを見せる尾瀬沼が垣間見えた。

「まだかなー」と歩くと会津の松枝岐からの入山コースと合流し、小屋は目と鼻の先であった。

始めて尾瀬に入ったのはかなり前になるが、その頃小屋は無く、大広間の雑魚寝で大いびきや誰かの放屁で安眠妨害にあった記憶があるが、この晩は小屋でひと風呂浴びることも出来た。

風呂では石鹸禁止、歯磨き粉もダメなので体が綺麗さっぱりとはいかない（山小屋の荷運びはヘリでなくボツカさん、百キロを背負って歩くなんて想像できない。）

小屋での楽しみは晩飯と一杯のお酒、それに囲炉裏端の山自慢というところだろうか。私達があたりまえと眺めている尾瀬の風景、これまで何度も自然破壊の危機に立たされてきた。

富国強兵による水力

尾瀬がそれほど壊されずに今日のように残ったのは、自然と共生して「長蔵小屋」を守ってきた平野長蔵家の尽力が大きいと思う。

特に3代目の長靖氏は、道路建設反対運動に立ち上がり、実質初代環境庁長官大石武一氏に対しての直訴等によって、沼田会津道路を断念させた立役者でもあった。

長靖氏は小屋に帰る途次、三平峠で吹雪によって若い命を失ってしまったが、平野長蔵家の墓は小屋の近くのヤナギランの丘にある（冬は誰も行けない。）

翌日、私達は長靖氏の碑が建つ三平峠を超えて尾瀬に別れを告げた。（終わり）

世界の国々

「原始社会は男は狩り 女は採集」覆すか 青山崇

2020年11月に学会で衝撃的な発表があった。発掘した9000年前の墓を分析したところ埋葬されたハンターが女性だったという内容だった。

米カリフォルニア大学考古研究チームが、ペルーのアンデス山脈で発掘調査を行った。約9000年前の墓が検出された。墓の中に成人の骨とともに、多様で見事な石器があった。大きな獲物を倒し、その皮をはく作業までの道具が揃っていて、その後の分析で意外な



（狩りの様子を描いた想像画）

それだけではない。米大陸全域で発掘された同時代の墓の調査結果を見直したところ、大型動物ハンターの30〜50%が女性だった可

能性が明らかになった。

古代社会における男女の役割については数十年にわたって議論が続いているが、今回の調査結果は新たな証拠をもたらした。

先史時代は男性が狩り、女性は採集と畜児というのが広く知られている考え方が、一部の学者は、こうした「伝統的な」性別による役割分担は、19世紀以降の世界の狩猟採集民を調査した



だがこれまで、多くの証拠を見過ぎてきたことを示すもので、考古学者にも警鐘を鳴らすものである。

社会主義に非ず

一度は行きたいと思っていた香港で、りんご日報と言う新聞が廃刊になったと先頃の報道だ。新聞がなくなるといふ事は、報道・言論の自由と国民の知る権利が無くなった事になると思ふが。

▲廃刊になった訳は、国の圧力。つまり国が発行出来ないようにしたんだネ。代表者をしよつ引くと共に金を使えないようにした事と、新聞の用紙・つまり紙が手に入らないようにしたんだ。

▲日本にも、つい70年前に同じ事があったんだって。戦中で紙が少なかった事もあったと言っているが、実は言論統制だったんだ。

香港で廃刊になった新聞のように、政府を批判する新聞社には新聞になる紙が手に入らなくて廃刊だ。大新聞も

人類学者の研究によるもので、古代の人々にも当てはまるとは限らないと主張してきた。

今回の調査は、人骨が狩猟する女性だったことを裏付ける確かな証拠をつくった。

大本営発表ばかりで、負けを勝ったとウソを知らせていたんだト。▲香港では、自分らの意思表明であるデモ行動が禁じられた。デモ参加者より多い数の警察官が待っている見えるテレビ画面も。これは、香港に対しての中国の法律。国の批判は許さないと云う、香港国家安全維持法という法律のせいだ。

▲戦前の日本に同じような名前と働きをした治安維持法というヤツが。これは、戦争に関する一切のウワサも許さないというもので、隣組制で相互監視をさせながら、特別高等警察・いわゆる特高が何かと因縁をつけてはしよつ引いたんだ。ご存じの小林多喜二を、逮捕した日に殺している。▲香港に自由がないと世界中が批判。日本共産党は、社会主義に非ず・と批判。（石川）